

地域の絆で創る思いやり溢れる未来へ

かなたに幸則市政報告

KIZUNA NEWS

地域の絆ニュースVol.3



呉羽丘陵フットパス 着々

富山の新しい観光スポットとしても期待が掛かる
連絡橋の進捗状況

「とほ活」アプリの活用

歩くライフスタイル戦略に基づき開発
された「とほ活」アプリの活用状況



コロナ禍に負けるな!

6月定例会で可決したおもな富山市の
新型コロナウイルスの支援策について

新たな人気スポットに期待

Q 今年度の「呉羽丘陵フットパス連絡橋とその周辺広場の整備」について検討状況や内容について問う。

A 中田建設部長 学識経験者や地元関係者などで構成される「呉羽丘陵フットパス整備計画検討委員会」の下部組織である連絡橋の構造検討部会と、連絡橋を含めた周辺広場の利活用検討部会でそれぞれ検討を行っている。

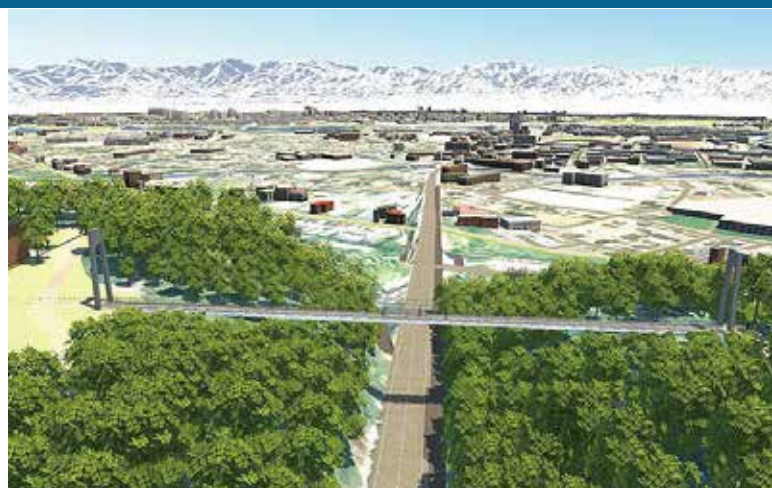
今月下旬に開催を予定している当委員会で、これまでの検討内容を初めて報告する予定である。

この連絡橋は、人道橋としてつり橋を架橋することを基本とし、安全性や利便性にも配慮した構造であること、橋の上からの眺望を阻害しない構造となること、さらには連絡橋自体がシンボリックなものとなること、などのデザイン面についても検討を進めている。

周辺広場につきましては、連絡橋と一体的に利用できることを基本とし、立山連峰や富山湾への眺望を確保すること、飲食や物販が可能となる空間とすることなども検討を進めている。

Q この呉羽丘陵フットパスの連絡橋や周辺広場が完成をすれば、市民だけではなく、県内、県外からも訪れる、そんな観光客にも人気のスポットになることを期待する。

しかし呉羽丘陵には、ファミリーパークや、民俗民芸村等の施設や七面堂や朝日の滝、古墳群等々、歩きながら自然観察や歴史探訪ができる場所が多くあり、まだまだ整備が必要な箇所やPR不足を感じる。



富山の新名勝としても期待される呉羽丘陵フットパス連絡橋

地域住民から、県外来訪者のための案内版の設置ですとか、駐車場の不足などの要望もあり、石仏の移動の要望もある。呉羽丘陵フットパス全体の環境整備をする必要があると考えるが、当局の見解を問う。

A 中田建設部長 呉羽丘陵フットパスは、呉羽丘陵にある6か所の視点場や施設、史跡などを結ぶ全長約15キロメートルに及ぶ散策路である。現在、県道により分断された散策路を結び、一大ルートを構築するための調査、設計を進めている。

しかしながら、歩きやすさ、ニーズにあったルートの設定や回遊性など改善すべき点が多い。

今後、これらの点について改善し、利用者の増加につなげ、フットパス全体を活性化しようと考えており、これらを踏まえ、学識経験者や地元関係者などから意見を頂きながら、来年度より整備計画の策定に向けて検討を進めている。

連携してアプリの活用を

Q 「とほ活」アプリの利用拡大に向けてどのような取組を考えているのか。

A 前田 活力都市創造部長 これまで「広報とやま」等で普及・啓発と併せてPRを行ってきた。また、昨年10月から今年1月にかけて、中心市街地や公共交通沿線にある企業17社、大学及び専門学校計8校を職員が直接訪問し協力を依頼してきた。

また、賞品の応募資格につきましては、来年度以降、富山市民に限らず、市内の事業所や学校等に通勤・通学する18歳以上の方であれば誰でも賞品に応募できるようにする。

Q 「とほ活」アプリをもっと進化をさせていくためにも、市民の多様なニーズに応じて、他部局や民間との連携の取組について問う。

A 前田 活力都市創造部長 歩くライフスタイル戦略に基づき、今年度から本格的に開始いたしました「Toyama Smart Life Point」事業は、活力都市創造部が中心となって、ほかの部局とも連携を十分に図りながら取り組んでいる。

来年度以降におきましても、各部局が所管するイベント等の開催日を事前に調整することで、事業効果がより一層高まるよう努める。

また、富山商工会議所や富山市商店街連盟などと連携し、中心市街地の各商店街の店舗への来店に応じてポイントを付与することや、まちなかに



ある民間の美術館などを訪れた際にもポイントを付与することなど、民間と連携した取組についても来年度から開始したいと考えている。



まずはアプリをダウンロード



歩く生活がもたらすさまざまな“富”で豊かな生活を送る、新たなライフスタイルへ



コロナ禍に負けるな! 富山市の新たな支援策

子育て世帯への
支援

①ひとり親家庭支援給付金支給事業 補正額 66,719千円

令和2年5月31日時点の児童扶養手当受給者一人当たり3万円の給付

②子育て世帯への臨時特別給付金支給事業 補正額 553,714千円

令和2年4月分の児童手当の受給者対象児童一人当たり1万円の給付

観光客誘致の
支援

①富山市内宿泊促進事業 補正額 55,000千円

新型コロナウイルス感染症の影響により、観光・宿泊需要が低迷し厳しい経営状態にある宿泊施設の利用促進を図るため、市民を対象に宿泊料金の割引を行い「富山に泊まってエンジョイキャンペーン」を実施

企業への
支援

①補助金等申請支援事業 補正額 10,000千円

様々な申請手続きに要する費用の一部を助成し、国や県の各種制度を有効かつ迅速に活用できるように支援する。

補助率 対象経費の1/2 上限10万円 申請期間 令和3年3月31日

②緊急経営基盤安定資金融資制度の拡充

中小企業者等が行う設備投資にも活用できるよう資金用途を追加するとともに、新たな資金需要に対応するため融資限度額を3000万円から5000万円に拡充。取扱期間 令和2年12月31日まで

